

# 花吹雪が歓迎 6千人



## 2001年度入学式

21世紀最初の記念すべき2001年度入学式が盛大に行われた。例年より1週間ほど式が遅かったせいかサクラは「超」満開。式が始まる1時間ほど前から新入生が集まり始めた。当然の登校手段となったモノレール。「2年前の入学式にはまだモノレールはなかった」「いまや、半数以上の中大生はモノレールもない当時の事情を知らないのか」と思うと、時のたつのがいかに早いかわかることを実感した。

入学式は7日午前が商学部・総合政策学部・大学院、午後が法学部・文学部が第1体育館で、8日は理工学部の入学式が後楽園校舎で行われ、双方のキャンパスとも花吹雪がニューカマー6千人の「中大生の第1歩」を祝福していた。多摩校舎で拾った「2001入学式」――。

# 「判断力と責任感を」



## 鈴木学長の式辞

### ※親と子、 そして入学式場

○…まず、父母に「中大の印象は」という質問から入った。すると、ほとんどの父母は「とにかく広い！そして緑が多い！ だれど人が多すぎる！」がダントツだった。息子に内緒で式に出てきたというお父さんは「大学をどう過ごしてもいい。た

だ、4年間これをやったと自信が持てるものを1つでもいいから持てるような学生生活を送ってほしい」と答えてくださった。また「社会が変化していくなかで、女性だからといって男性と差を感じることなく社会へ出てほしい。その準備として、資格を取るなど大学の環境を大いに利用して欲しい」とお父さんが答えると、傍らの娘さんが「がんばりま



① 式辞を述べる鈴木学長

② 体育館に通じる道は身動きとれず

### 【学生記者】

山口丈晴、シテイキム

ニブ、伊藤由紀、柿元理栄、

神山祐里、竹平道郎

す！」と私にいつてくれた。父娘の美しい風景だなと思った。

なかでも最も印象的だったのは男の子を持つお母さんの一言だった。

「ここまで元気に育ったので、あとは知りません。これからは私も自分の時間を作り、自分探しをするの……」。大人の世界に足を踏み入れる子供の背中を押す、そういう声にも聞こえた。

○…昨年の入学式当日の駅の混雑ぶりを良く覚えているが、今年も変わらない風景が繰り広げられた。スーツに身を包んだ新入生は、あまりの混雑に戸惑いながら改札口を抜ける。そして大きな滝のように学生が駅の階段を駆け下りていく。そんな彼らに「大学でしたいことは」を問いかけてみた。法学部の学生は「公務員試験をめざして努力したい」。隣の商学部の学生は「簿記会計の資



この日はかりは、どこへ  
行っても人だらけ ▶▶



格をめざして勉強し、公認会計士になる夢を実現させたい。いずれも自分の能力の証明となる資格。これからは大きな武器になるだろう。ますます国際化の時代の波に乗っている留学生たち。中国からの女性の留学生に聞いてみた。「貿易のことを精一杯学び、将来の職業に繋がたい」と商学部貿易学科生らしい答え。日本の大学生のファッションにも興味があるといっていた。彼らは、ますます「資格」を視野に入れた職業選択を優先しているようだった。

○さて、入学式会場。鈴木康司学長から中大の歴史、OB・OGの活躍、新人生への期待などが述べられた。「自分の考えに基づいて行動できるよう、判断力と責任感を持つてほしい」、また「キャリアデザインを考えるとともに、環境問題のような人類普遍の問題へも取り組んでほしい」と話された。一方、阿部三郎理事長は「変革期である21世紀において、個性を磨くことが重要だ」といわれた。

式後、学長に入学式の感想を伺っ

たら、「どういう時代になるか、先が見えない社会なので、若い人たちが積極的に道を切り開いていってほしい」という気持ちを含めて話した。壇上から見た新人生は、不必要な緊張はなくなりラックスした感じで聞いていた。大学生活は身近いように思うかもしれないが、人生にとっては貴重な時間だ。幾つもの波を乗り越えて、有意義な時間をおくってほしい」とおっしゃった。

さて、式場での学生の印象は……。広島県出身の男子学生は「学長の『大学で目標を見つけてほしい』という話が心に残った。インターネットを使って、世界を相手になにか始めたい」と目を輝かせていた。香川県出身の女性は「初めての独り暮らしは大変ですが、それ以上に自由な時間ができてうれしい」と笑顔で話していた。

新入生の話を聞いてくると、具体的な目標をもって入学した人はごく僅かだなと感じた。また、勉強だけではなく、サークル活動、アルバイト、信頼できる友人をつくることなどを通して成長していきたいという答えが多かった。

## ※4年間の食生活管理も大変だ

○：日本一の大学食堂は1階から4階まで終日、大盛況だった。スーツ姿の人、ひと、ヒト。普段では見られない光景だった。私たちも思いがけず緊張を感じた。「安くておいしい」と評判の学生食堂は、中大周辺の一般市民までが足を運ぶほどの人気がある。そんな食堂をきょう初

めて利用した新入生の声を聞いてみた。

「おいしかった」「メニューがたくさんありすぎて目移りした」「安くて驚いた」と、良い返事ばかり。同伴の父母に何っても「これなら安心して、お弁当作りから解放されます」という意見や、地方から来た方

は「うちの子は自炊が出来ないの、食事管理が心配だったんですけど、ここの品ぞろえを見て、なんだか安心しました」という声も聞かれた。そこで、記者の「栄養面では心配ないですね」という問いに、「確かに、自分の好きなものばかり食べていたら、栄養は偏りますよね」という、いかにもお母さんらしい気遣いを見せていた。

ウーン、こもつとも。私たち（とくに独り暮らしの学生）が学食を利用して栄養管理に気をつけるには、いくらメニューがそろっているからといっても、個人々々が意識して注意しなければならぬということなのです！ 新入生はもちろんのこと、在学生もその点を見直し、ことしも上手に学食を使ってほしいと思います。

わが部へ

わがサークルへ

